

さ ざ ん か

第 120 号、2011 年 10 月

東日本大震災から 7 か月以上過ぎました。被災者の立場に立つと、あまりにも長い日々です。たった一日の出来事ですべてのものを失った多くの人々がいます。その後、何か月も事態の好転なく過ごす日々。励ましのエールとか、義援金とか、コンサートとか歌謡ショーとかお笑いショーとかスポーツイベントとか、ボランティアとか多くの国民が東北の人達のために応援していますが、この国の政治家達が被災地に与え続けているのは、絶望と不信感と、不安、苛立ち感、虚無感だけのような気がします。

補正予算を組むのさえ遅れに遅れ、空論を交わすばかり。大臣になれば思い上がりと勘違いと無知の発言を繰り返す低品質の政治家たち。震災後に何人の人がなくなったのでしょうか。本当に一刻の猶予もなく助けを差し伸べなければ、今日明日中に死んでしまう人々がいまでも相当数いるのではないのでしょうか。被災地の農業や産業に鞭打つように TPP 参加へ向けて騒いでいる愚かな政治家たち。と、政治屋か。自由貿易とグローバリズムと云う言葉に何度騙されれば懲りるのでしょうか。いや、たぶん騙されたとは思っていないのでしょうか。確信犯と云うべきか。TPP で日本の輸出が増えても東北と日本人は豊かにはならない。トヨタとキャノンの株主と役員は豊かになるであろうし、トヨタとキャノンの社員も少しはおこぼれをもらえるかもしれませんね。

また、アホだと分かっているのに、アホ政治家のくだらない失言を取り上げたり、TPP 是非かなどとタレントのようでほとんど中身のない政治家達に討論ばかりさせて視聴率を取ろうとしているマスコミ報道からは、現地の、東北のうめきや嘆きは伝わってきません。

現代において、もっとも低能、かつ、あくどくて、おまけに誠意がなく、自分の汗を流さないでお金だけはしっかりと稼いでいるのは、政治家とマスコミ人である、という風に多くの人が思っているのではないだろうか、と思うのですが、現実はそうでもないと言うことでしょうか。なぜなら、政治家は何回も選挙に通り、相変わらず大手マスコミ人の年収は若手でも軽く 1000 万円を超えているのは、多くの人々がそれで良しとしている証拠なのではないでしょうか。

何とかならないのでしょうか。今の自民党と民主党が 2 大政党制で交代で政権を運営するとしても、今回はアホ政権、次回はバカ内閣となるばかりでいつまでたってもアホかバカであるということには変わりはないのではないのでしょうか。

年金支給年齢の引き上げをはかったり、TPP を推進しようとしたり、「コンクリートから人へ」といういかにも国民を大事にしそうな民主党のスローガンにだまされた国民が悪いのでしょうか。皆さん、どっかに、いい政治家知りませんかあ？

病院からのお知らせ

* 11月1日からインフルエンザワクチンの接種を開始します。手続等は例年通りです。

予約は不要です。市町村からの問診票をお忘れなく。詳細は各科外来にお尋ねください。

* 5月から電子カルテシステムが稼働しております。当初は、特に外来受付の時に、ご面倒をおかけしたようです。その電子カルテでは患者さんのデータを経時的グラフで表すこともとても簡単にできます。たとえば、この1年間のコレステロールの変化を見たい、などという時は主治医にご相談ください。その場でグラフ提示ができると思います。

* 肺炎ワクチンの予防接種を行っております。ご希望の方は各科外来に申し出てください。予約制になっております。

* 亜急性期病床は14床分準備してあります。リハビリテーション中心で少し入院期間が長くなりそうな方向けの病室です。ぜひご利用ください。

* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。

骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいいでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。

骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。

* MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる）の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。

無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。

* MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。

* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

* 肝臓病、糖尿病、脳神経外科、難病などの特殊外来は診察日が決まっておりますので、診察希望の方はあらかじめご確認ください。

これまでの人生 別府政隆

最近特に身体に異変を感じるこの頃です。夜も寝つかれない日々が続いています。年のせいかなあ、足腰に激痛がひどくなった。実は20年前に腰とひざの手術を受けた。当時は順調にいき運動会にも走った程で、また結果も良かったのですが、近頃は日増しに痛みを

感じるようになった。これまでも何回となく、身体にメスを入れて、修理、修繕して来たのですが、老いて行く我が身を思う時、何回修理し、また薬を服用すれば、人生が終わるのであろうか、不安な毎日である。実は、私が独身時代も建設現場で作業中に足をすべらせ、岩石の上に落下し、腰部を強打、意識不明のまま病院に運ばれ1年8か月間もの入院をした事がある。再起不能とまで云われていたが、運よく元気を取り戻したのである。思えば事故から53年間の中で、今の妻と結婚し、子供を授かり、孫達も成長してくれた。

母も大変喜び、孫たちを可愛がっていたが、7年前に他界した。これまでも、幾多の多難にめげず今日までくらし続けて来たのである。残された人生を生きるためにも、孫はわが子よりも可愛いと云うが、正にそうである。一番チビが大学生とあって、頑張っているようで、たまの電話で、ぢいちゃん、ばあちゃんと声をかける。離れていても近くにいるようで、それはそれは可愛くて仕方がない程嬉しいです。この会話時間は痛みも忘れてしまい、語る事40分間、仕送りにもわづかであるが、それなりの小遣いを入れてやる楽しみもひとしおです。こうして自分たちの親たちも人生を終わったのであろう。永いようで短い人生を子や孫達に少しでも喜ばせてあげたいと思うことである。少ない年金暮らし乍らも先の見えない我が身を思う時、どう生きて行けば良いかも不安も募る。妻と語り合いし乍ら、ひっそりと生活(くら)す毎日です。明日の光明に合掌し乍ら生きて行こう。

俳句

西屋敷 喜美子

ちらちらと せせらぎ流る 萩の花

畦道を 行けども続く 彼岸花

台風の 去りて女の 旅支度

短歌

瀬戸 良子

災害に家なき人も仰ぎおらん 眞春の如き 十五夜の月

一字づつ ずらし乍らに読む活字 ルーペ外せば点てんに見ゆ

介護への道パート3：挫折と終焉

カラーマン (とその女)

気合いをこめて始まった介護への道。ボケまくりの両親、しかも一人は肺癌末期という介護するには絶好の条件と云うかポジションで始まった介護への道であったわけであるが、早々と挫折してしまった。なぜならば、被介護の主役でもある父がさっさとあの世へ旅立

ってしまったのである。実質、在宅医療・介護を開始してから約3か月と云う短い介護生活でおわってしまった。(死亡する。あの世へ旅立つ。鬼籍に入る。永眠する。他界する。往生する。成仏する。冥途へ旅立つ。お隠れになる。身罷る。そうねえ、旅立つというのが何となくあっさりして、どこか希望的でもあり良い表現かもしれないわね。)

基本的に出来るだけもう人工的な医療の関与はやめようと思っていた。最後は、酸素吸入も、点滴も、経管栄養も行わなかった。

(それって、もし入院していたら、酸素吸入もしてくれない、点滴もしてくれない、栄養補給もしてくれない病院ということになって、訴えられかねないわね。なんせ、病院で転んで骨折しても病院の管理が悪い！と訴える人が増えている世の中だものね。)

とある9月の日曜日の夜、父は私と母に見送られて旅立った。殺伐とした病院の個室ではなく、自らが建てた家の応接間にベッドをいれ病室とし、妻と息子の2人だけと声を交わし、手を握りしめられて見送られる旅立ちはまあ、そう悪くはなかったと思っている。最後はやや呼吸が苦しそうであったので、一日でも長い滞在より、一日でも早い旅立ちは自然な形の旅立ちであった。

鹿児島に生まれ、鹿児島で育ち、戦争と云う当時の日本人誰もが振り舞わされた大事件を経験し、戦後の復興、やがての高度成長期を経験し、平凡な給与生活者としての社会人人生を終えた後は、約30年近くのこれまた平凡な年金生活を送った父。

波乱万丈の環境ではあったが、日本人ほとんどが戦争という波乱万丈の時代を経験しているわけで、必ずしも個人的には波乱万丈ではなかつただろう。戦後の混乱と貧しさも、一部の人間を除いて日本人誰もが経験した事である。

ここ50年、ニッポン国はそれなりに安定しており、軍国主義も、戦争も、焼け跡も経験していない。想像の中でしか経験できないようなことを現実として経験してきた人間はまたうらやましくもある。経済と文化のみの変化は平和の証として望ましい事であるが、一方で、かつて日本と戦ったライバルの米国は日本に勝ったあとも戦争のしっぱなしであり朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガン戦争、イラク戦争と、少ない倫理と身勝手な大義のもと、多くの若者の命が失われる(失わせる)という犠牲を払い続けており、平和ボケする暇もない。

一方、完全に平和ボケしたかつての大日本帝国は、誰のための日本国なのか、政治家はだれのために居るのか、誰が国を守るのか、誰が日本人なのかすらわからず、その存在意義すら考えることをしなくなってしまった。

「個」が「公」を遥かに凌駕してしまった。学校の成績が悪いのはバカ息子のせいではなく、学校の教え方が悪いことになってしまった。世の中が嫌になって死にたくなかったから、沢山の殺人をして死刑にしてもらおうと思うようになってしまった。

年金積立をしない人間が、将来は、年金はなくても年金より多額の生活保護での生活を期待するようになってしまった。税金を払ってない人間が「俺たちの血税」と叫ぶようになってしまった。首にならない威張った公務員が居直ってしまった。彼らの給料は、我々の税金ではなく国の予算から出ていると強弁し、仕事を作ることが仕事になってしまった。

何でも賠償請求するのが当たり前になってしまった。昔の注射針の使いまわしによるウイルス感染が原因の病気も、今、罪は問われないが気が遠くなるような多額の賠償しなければならなくなった。

「公」が「個」を圧倒した戦前よりはまだまだだと思っていたが、最近の「個」と「人権」の独り勝ちには憂いを覚えざるを得ない。子供の人権などというとんでもない言葉が作り出されてしまった。人権に大人も、子供も、男も女も、関係ないはずだ。子供の特権を人権と称して肥大化させてしまった。

晩年、父はこういう風潮をしばしば嘆いていた。しかし、もうつまらない事を考えなくてよくなった。ああ、うらやましい。残された私は、更に認知に磨きがかかった母親と、腑抜けのような政治家に国政と年金制度を託して生きて行かなければならないのである。
(年金支給年齢を引き上げるとか、信じられない冗談みたいなこと言っているわね。70歳近くになって年金貰ってどうすんの！何十年も働いてきたのだから、定年になったら人生を楽しむのが当たり前だわ。年金貰えるまで、10年も無収入でいられますか！ああ、考えただけで頭に来るわあ。バカ官僚と政治家め)

介護への道を歩み始めて気づいたことは、高齢者への医療は少し手を抜いても良いかと思う反面、高齢者への介護にはまだまだ力を注がないといけないのではないかということだ。医療費と介護費のバランスは、高齢者と若者とでは当然異なる。若者には医療を、高齢者には介護を。

超高齢者に施す高額医療費で意外と大多数の介護費用がまかなえそうだ。

(たとえば、高カロリー輸液、抗がん剤、抗生物質を使用したり、血液製剤などを使用すると月に軽く100万円以上の医療費がかかる。90歳でも100歳でも若者と同等の医療を受ける権利がある、命に差別があってはならない。と人権大好きマスコミはいうのよねえ)

父の終末期にほとんど医療を施さなかったことは、少しも私のトラウマにはならない。

むしろ、血液検査や点滴であちこちの血管に注射針を刺されまくったり、尿道にカテーテルをつっこまれたり、鼻からくだを入れて人工栄養を注入されなかった父は感謝してくれているのではないかと、居直ったりしている。

いずれにしろ、いきがりながら、あきらめながら始まった介護の道は父の死により早々に挫折した。今後は、もちろん母の介護と云う道は依然として残ってはいるが、それは認知症という直接、身体的介護を伴わない、現代でももっともやっかいな人生の終末への道であり、忍耐と寛容という私にとって最も欠如している能力が求められる辛い介護への道となりそうな予感がするのである。

身体的触れ合いがあった父の介護は、勝手に父が旅立ってしまったことにより、中断してしまっただが、ちょうど、この程よい期間経過しての旅立ちはまさに、幸せな人生を送ってきた人間の最後のあいさつとしては出来すぎである。

(終わりよければすべてよし。嘆きながら、怨みながら、泣きながら死ぬのもまた、人間だから仕方ないけど、あっさりさりげなく旅立つのも良いわねえ。)

まあ、そう遠くないうち(父と同じだとすると30年位、ちょっと早いと20年、へたすると10年、いや2,3年か・・・おお、こわ)にまた父に会えるとなぜか信じている。というか、今でもただこれまで通りで、ただ、いま離れて住んでいるだけだという感覚である。実家に帰ればいつでも会える・・・不思議であるが、そういう感覚であるので寂しくも悲しくもないのである。

何十年もあっていない幼馴染みたいなものなのか、どうか。良く分からないが少なくとも喪失感がないことは間違いがない。誰もが経験する親の死を経験して、何かをつかみかけながら、いまだ何も掴んでいない。つかむ必要もないのであろうけど。

編集後記

秋深し隣何をする人ぞ。春に起こった大震災ですが、すでに初夏を過ぎ、真夏を過ぎ、秋になり、そしてその秋も深まりつつあります。この間の政府と東電の無能で横柄な対応に人々があまり怒らないのは、いつもは大衆を煽るマスコミがあまり彼らの怠慢を追及しないからなのではないでしょうか。東電の100ページ以上にわたる賠償請求書関係の書類とか、震災にかこつけた増税問題とか、本来怒り心頭に達して怒るべきところだと思うのですが、日本人は穏やかですね。そういえば、格差反対を訴えた世界同時期のデモでも、日本のはあまりにも迫力がなさすぎましたね。しかし、多分、これは良い事なのだと私は思います。みなさんはどう思いますか。もっと怒りを外部に表現すべきなのではないでしょうか・・・(KT)